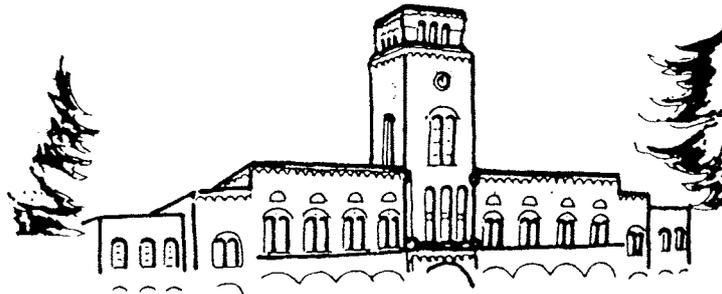


No.47

鐘

一橋大学附属図書館報



一橋と簿記と西川文庫
都留重人と激動の時代

THE HITOTSUBASHI UNIVERSITY LIBRARY BULLETIN

2004.10

一橋と簿記と西川文庫

安藤 英義

これからお話する^{*1}内容は多くの文献によっているが、とくに片野一郎著『簿記精説』(同文館, 昭和39年改訂10版)と西川孝治郎著『日本簿記史談』(同文館, 昭和46年)に負うところが大きい。

経済史家ゾムバルトをして資本主義企業の生成と発展を可能にしたと言わしめた複式簿記は、中世イタリアで生成した。その最初の活字印刷本が、1494年にヴェニスで出版されたルカ・パチオリ著『スムマ』(いわば数学全書)におけるヴェニス式簿記の詳述部分である。複式簿記はその後商業活動に乗ってヨーロッパ諸国に広まり、イタリア式簿記とも称された。日本へは江戸期に複数オランダ語の簿記書が入っている。しかし、これらのオランダ簿記書が邦訳紹介されることはなく、日本における複式簿記導入の先駆けは、幕末の横須賀製鉄所、明治初年の大坂造幣寮においてであった。

今回の企画展示「複式簿記がやってきた!」^{*2}のパンフレットで紹介されているように、英米簿記書の邦訳出版が1873(明治6)年6月刊の福澤諭吉訳『帳合之法』を皮切りに、同年には他に2点、そ

の後毎年数点以上の出版が続いた。明治20年までに簿記書の出版点数は84点に達したという。

日本における明治初期の簿記教育は、慶応義塾にはじまり、次いで商法講習所(明8)、神戸商業講習所(明11)、三菱商業学校(明11)と続く。一橋大学の前身である商法講習所創立当時の授業科目の筆頭はブライアント・ストラトン氏帳合法であり、その教科書は原書で、訳語は福澤訳『帳合之法』にならったようである。その後、学校名は何度か変わっても一橋では、「簿記」(の語の付く)科目は今日まで連綿と続いている。この間には一時期(明36~大4, 東京高等商業学校時代)、「簿記」担当教官が下野直太郎、鹿野清次郎、星野太郎の3名という面白い姓名現象も見られた。なお、私(昭42年卒)の演習指導教官は、『簿記精説』の著者で有名な片野一郎先生であった。

一橋は、日本の簿記学・会計学の研究においても光彩を放ってきた。明治から昭和の戦前までに下野直太郎(一橋在職, 明25~昭4)、吉田良三(大7~昭13)、太田哲三(大12~昭23)といった先達によって、わが国独特の簿記論(取引要素説)の完

*1: [編集部注(以下同じ)] 本稿は、平成15年度附属図書館企画展示『複式簿記がやってきた! : 明治初期簿記導入史と商法講習所』(2003年10月27日~11月14日)における講演(2003年10月30日)の要旨を纏めていただいたものです。

*2: 安藤教授には本展示の監修も引受けていただきました。
なお、展示の概要は、電子展示 <http://www.lib.hit-u.ac.jp/service/tenji/k15/> をご覧ください。

鐘

成と簿記を踏まえた会計学の樹立がなされ、それらは今日わが国学界の共有財産となっている。なお、大正中期には、「計理学」を提唱する鹿野清次郎と「会計学」を推す他の一橋教官の間で、当学問の名称に関する大論争が学界を巻き込んで展開された。

以上は「一橋と簿記」の話であるが、ここから話を「一橋と西川文庫」へ転じる。明治期の簿記書の収集と研究において世界の会計史学界にも名を知られた西川孝治郎氏は、商法講習所最初の外人教師W.C.ホイットニーによる簿記教育を調査するうちに、ホイットニーの事跡に興味を抱くに至った。その調査・研究成果は、昭和14年6月刊の一橋新聞(289号)への投稿記事を初めとして、一橋論叢(昭和30年12月号)などにも掲載されている。それに止まらず西川氏は、ホイットニー関係資料さらにはホイットニー肖像画を一橋大学に寄贈された。このような西川氏と一橋大学の関係については、本館報『鐘』No.10/11(昭和57年10月)*3に掲載された同氏稿「私のライフワーク」に詳しい。

西川孝治郎氏は、明治39年9月5日大阪市生まれ、大正9年神戸高等商業学校卒業、三菱商事入社、昭和6年三菱石油会計課長、同14年三菱商事に戻り、経理課長、経理部長等を経て顧問、昭和25年三菱石油経理部長となり後、取締役、監査役等を務めた。この間、日本会計研究学会にも所属し、昭和39年日本大学商学部教授、同46年著書『日本簿記史談』(同文館)で日経・経済図書文化賞受賞、教壇を降りた翌年の同56年The Academy of Accounting Historians から終身会員の称号を授与された。平成2年8月28日茅ヶ崎市にて他界。

一橋大学附属図書館が西川孝次郎文庫として所蔵する簿記書コレクションは、昭和57年に西川氏から寄贈されたものである。同コレクションは、明治から大正にかけてわが国で出版された簿記書(一部に原稿を含む)358点、約390冊*4から成る。そのほとんどは明治期の簿記書であり、大正期のものは10点程度にすぎない。

同コレクションは、和式帳合から洋式簿記への移行期、すなわち洋式簿記の導入期を網羅している。このことから同コレクションは、文明ないし文化受容の歴史証拠としても、わが国はもとより、世界的にも貴重な存在であるといえる。またそれは、大正期に花開く日本簿記学・会計学の誕生につながる遺伝子の宝庫である。

私は、助教授時代の昭和56年夏に、当時の森田哲彌商学部長の下で、同コレクションを一橋大学に譲り受けるための手伝いをさせて頂いた。それは、当時84歳の西川氏がお住まいの北千束のマンションに伺っての作業であった。この折の話から知ったのであるが、西川氏は当初、母校の神戸大学への寄贈を考えていた。ところが、神戸大学の先生方は、幸か不幸か(?), 同コレクションに興味を示さなかったということである。それでは一橋大学へということになり、自分で言うのも何だが、訪れた私の関心の高さと古書の扱い方を見て、西川氏は一橋大学に寄贈する決心を固めたようである。

この時の作業の様子については、雑誌『産業経理』Vol.57 No.2(1997年7月)*5に掲載の拙稿「《会計余話》西川孝次郎先生の簿記書コレクションー昭和56年夏の思い出ー」で紹介したことがある。同誌《会計余話》欄への私の執筆は、隔年で今でも続いている。最近、簿記会計における言葉の来歴を調べて、同欄に書いている。例えば、貸借対照表、損益計算書といった言葉の来歴について調べてみたところ、あまり知られていない発見があったりして、興味は尽きない。そして、このような調べは、多くが西川文庫に負っているのである。

私も定年まで残り3年となったが、もし西川文庫が手許にあれば、定年後も不自由はしないであろうに、と考えることがある。今一番手に入れたいものは何かと人に尋ねられたら、不可能と分かっている、それは西川文庫と答えるに違いない。

(あんどろ ひでよし 商学研究科教授・

前附属図書館長)

*3: 『鐘』のバックナンバーは、附属図書館webの電子版(<http://www.lib.hit-u.ac.jp/service/KANE/>)で読むことができます。

*4: 『西川孝治郎文庫目録』は附属図書館webに掲載されています。(<http://www.lib.hit-u.ac.jp/service/bunko/nisikawa.htm>)

*5: 附属図書館(請求記号: ZE/6)とイノベーション研究センター(請求記号: ZE/5)で所蔵しています。



講演当日の安藤教授
(2003年10月30日)

学生教職員の他、学会関係者、西川氏のご子息夫妻や元同僚等、学外からも多数の来場をいただきました。



ホイットニー肖像画贈呈の様
(1961年10月22日)

西川氏(左)から目録を受取る高橋泰蔵学長(右)。
中山正美画伯の筆になるこの肖像画は、現在附属図書館大閲覧室内に展示されています。

高本善四郎氏助成図書コーナー小展示

附属図書館では、高本善四郎氏(ダイトエレクトロン株式会社名誉会長、東京商科大学専門部昭和9年卒)から、平成14年4月にご寄附いただいた図書助成金により、名著・古典、および本学の蔵書構成を補完する分野の図書その他を、年次計画的に選定、購入し、利用に供しています。

また、本館2階には高本善四郎氏助成図書コーナーを設け、小展示を実施しています。展示内容は定期的に更新しますので、ご期待ください。標記コーナーの展示資料は、通常の蔵書と同等に利用できます。貸出もご遠慮なくどうぞ。

平成16年4月以来これまでに実施した小展示のテーマは以下のとおりです。

- 〈帝国〉：レーニン「帝国主義」からネグリ/ハート「帝国」へ
- 引用：模倣と創造のあいだ
- 時空を超えた比較政治学：銀河共和国議会、アカイア軍の集会、そしてアテーナイの民会模様
- 「走れメロス」の源流をたどる

10月からの小展示は“前衛表現の日本での展開：1920年代を中心に”です。



【平成16年度企画展示及び講演会のお知らせ】

都留重人と激動の時代

—いくつもの岐路を回顧して—

昨秋、経済研究所所長、一橋大学学長を歴任された都留重人名誉教授の研究資料や文書等が、経済研究所に寄贈され、今春には小展示が行われました。また、附属図書館でも、都留先生の執筆原稿や研究資料等を収蔵、保存しています。

そこで今秋、附属図書館と経済研究所の共催により、戦前戦中戦後の激動期に活躍された都留先生の足跡を回顧する拡大展示と記念講演を開催することとなりました。



都留重人名誉教授近影(2004年4月)

- (1) 展示 日時: 平成16年10月25日(月)～11月5日(金)
但し 10月26日(火) (講演会開催日)は19時まで
10月30,31日(土,日)及び11月3日(祝)は15時まで
場所: 一橋大学附属図書館公開展示室
(西キャンパス 時計台棟1階)
入場無料
- (2) 講演 日時: 10月26日(火) 14時～17時
場所: 一橋大学マーキュリーホール
(東キャンパス マーキュリータワー7階)
講師: 都留重人, 鶴見俊輔, 伊東光晴, 宮本憲一 (順不同, 敬称略)
入場無料

なお、詳細は附属図書館(http://www.lib.hit-u.ac.jp/service/index_Ja.html) 及び経済研究所資料室(<http://www.ier.hit-u.ac.jp/library/>) のwebページにて随時お知らせします。

電子ジャーナル・オンラインデータベースの 正しい利用について

本学で契約している電子ジャーナルサービスについて、利用規約に違反するコンテンツの大量ダウンロードが発生し、サービス提供元から警告を受けるという事態が、今年になって2件発生しています。これに対して、附属図書館で利用状況を調査、該当者を特定して厳重注意を行いました。

電子ジャーナルやオンラインデータベースといったデジタル・コンテンツにも、当然著作権があり、また、サービス提供元の定める利用規約があります。

〔Hitotsubashi University Network Resource Access Guide 2004 より〕

利用規約や利用条件などの内容はサービス提供元(ベンダ)により多少異なりますが、どの提供元においても、概ね以下の事項は禁止されています。

◆ システムティックなダウンロード

自動ダウンロードソフトなどを利用したり友達と手分けするなどして、大量のデータを一括または連続してダウンロードしてはいけません。一度にダウンロードする分量は多くなりすぎないように十分注意してください。ダウンロードは提供元が用意している検索性画面により、自らの操作により手動で行ってください。

◆ 個人の学術研究および教育以外の目的で使用する

◆ 複製したり第三者に再配布すること

規約や条件に違反する利用がなされた場合には、たとえ一個人の行為であったとしても、大学全体に対して利用停止などのペナルティが科せられたり、訴訟やひいては国際問題に発展しかねません。

その結果、一橋大学の学術研究、教育活動に重大な損失を与えることになります。

技術とルールは別物です。「できる」ということが「やって良い」理由にはなりませんし、「知らなかった」でも済まされません。

利用規約は、各コンテンツのサイトに“TERMS & CONDITIONS”というようなリンクが用意されていますので、必ず確認のうえ、それらに違反したり著作権を侵害したりしない利用を心がけてください。

なお、上で引用した『Hitotsubashi University Network Resource Access Guide 2004』は、<http://www.lib.hit-u.ac.jp/service/sankou/NRAG.pdf> でご覧になれます。また、冊子版も若干部ですが残っておりますので、ご希望の方はレファレンス・カウンターまでお申出ください。

(参考調査係)

オープンキャンパス2004特別資料展示

8月3日(火)、「オープンキャンパス2004」が開催され、約1,800名が来学しました。

オープンキャンパスは、大学進学を考えている高校生等に、本学の教育内容や学習環境を公開し、志望校決定の参考にしてもらうための恒例行事で、附属図書館でも例年館内見学ツアーなどを行い、好評を得ています。

今年度からの新たな試みとして、一橋大学の持つ膨大なコンテンツの一端を実感してもらうことを目的に、附属図書館及び社会科学古典資料センターの所蔵資料から、下記の9点を選んで特別資料展示を行いました。

【附属図書館出展】

- 大伝馬町木綿店仲間文書差引帳 [おおでんまちょうもめんだななかまもんじよさしひきちょう]
江戸の大店で使われていた巨大な大福帳
- 日本郵船株式会社『金銀出納帳』
高さ60cm、重さ30kgを超える明治時代の巨大な簿記帳



和洋の巨大会計帳簿

- 大坂東町奉行所図
大塩平八郎が勤めていたころの大坂東町奉行所を描いた掛図
- 清水晴風『江戸町中世渡集』 [えどまちなかよわたりしゅう]
江戸の街角で見られた様々な職業の絵図
- ドイツ紙幣コレクションから
第1次世界大戦後の超インフレーション期に発行された天文学的な額面の紙幣

【社会科学古典資料センター出展】

- トマス・ホッブズ『リヴァイアサン』初版
Thomas Hobbes, *Leviathan*, London, 1651.
- デイドロ他編『百科全書』初版
Encyclopédie, ou Dictionnaire raisonné des sciences, des arts et de métiers, Paris, 1751-1772.



西洋古典名著が一堂に

- アダム・スミス『国富論』初版
Adam Smith, *An inquiry into the nature and causes of the wealth of nations*, London, 1776.
- カール・マルクス『資本論』初版
Karl Marx, *Das Kapital: Kritik der politischen Oekonomie*, Hamburg, 1867.

オープンキャンパス当日のみの展示でしたが、延882名の入場がありました。

今回展示したものは、主に高校生になじみ深いものですが、中でも、教科書に出ている『リヴァイアサン』や『国富論』の初版本、1兆マルク紙幣の実物などに人気が集まったようです。



展示風景

雑誌貸出規則の一部変更について

平成16年度第2回図書館委員会において、製本のうち法学分野の和雑誌については、未製本雑誌と同じく当日貸出扱いとすることが決定されました。

これにより、平成16年度後期(2004年10月)から、雑誌の利用条件は下記のとおりとなりますので、ご承知のうえよろしくご協力願います。なお、館外貸出を利用できるのは、本学の学生教職員等利用規則に定められた方となっていますので、ご注意ください。

資料種別		貸出期間
未製本雑誌		館内貸出 または 当日貸出
製本雑誌	和雑誌 請求記号ZM (法学分野)	
	洋雑誌	1週間

なお、詳しくは当館web利用案内*6をご覧ください。
(利用者サービス係)

本学教官著訳寄贈書一覧

(平成16年3～8月)

※[]内は請求記号

糟谷啓介

- 絶滅していく言語を救うために(訳) [8000-455]

森武磨

- 小田原市史(全15巻)(編纂) [2110-239]

町村敬志

- オープンスペースの社会学：東京で/の「すきま」を探す(編) [Az-375]
- 開発の時間・開発の空間：「佐久間ダム」再考(研究代表編) [Azc-257]

田中克彦

- ことばとは何か：言語学という冒険 [8000-459]

野田博

- 会社法の現代的課題(編著) [3252-557]

川井健

- 民法入門. - 第4版 [3240-584]

- 民法；1. 総則・物権法 [3240-573-1]
- 民法；2. 債権法 [3240-573-2]

南博方, 高橋滋

- 条解行政事件訴訟法(編) [3239-420]

恒川邦夫

- 文化アイデンティティの行方：一橋大学言語社会研究科国際シンポジウムの記録(編著) [3610-2221]

西成田豊

- 経営と労働の明治維新：横須賀製鉄所・造船所を中心に [5500-64]

小野秀誠

- 司法の現代化と民法 [3200-281]
- 土地法の研究 [3346-59]
- 専門家の責任と権能 [3271-108]
- 大学と法曹養成制度 [3200-204]
- 利息制限法と公序良俗 [3248-93]
- 反対給付論の展開 [3245-115]
- 給付障害と危険の法理 [3245-117]
- 危険負担 [3245-158]

竹内弘高, 野中郁次郎

- Hitotsubashi on knowledge management [3361-363]

江夏由樹

- Banner legacy : the rise of the Fengtian local elite at the end of the Qing [2220-169]

図書館業務システムの更新予定について

来たる2005年1月に、図書館業務システムが更新されます。

オンライン目録システム(HERMES)も更新され、携帯電話による検索などの新機能が加わる予定です。

なお、更新に伴い、HERMESのURLが変更されます。その他詳細と併せて、順次当館web上でお知らせします。

(情報推進課)

*6: <http://www.lib.hit-u.ac.jp/service/guide-j/who.html>

LIBRARY CALENDAR

- 開館時間の詳細は <http://www.lib.hit-u.ac.jp/service/calendar-j/> でご覧になれます。
- 携帯電話からでも休館日を確認できます。(iモード) <http://www.lib.hit-u.ac.jp/i/>, (J-sky) <http://www.lib.hit-u.ac.jp/j/>
- 臨時休館等変更の場合は掲示でお知らせいたします。

曜日・期間			月～金曜日(平日)			土曜日・日曜日・祝日(休日)		
			授業期	試験期	休業期	授業期	試験期	休業期
本館	メインカウンター	貸出・返却等	9:00-22:00	9:00-23:00	9:00-17:00	9:30-16:30	9:30-17:30	休館
		書庫資料取出	9:00-12:00 ; 13:00-16:45					
		書庫内閲覧※	9:00-16:30 (16:45閉庫)					
		レファレンスカウンター	9:00-12:00 ; 13:00-17:00					
	文献複写カウンター	9:00-12:00 ; 13:00-14:30						
雑誌棟		9:00-21:30	9:00-22:30	9:00-17:00	9:30-16:00	9:30-17:00		
大閲覧室					休室			
東学習図書室		9:30-16:45						

※ 書庫内閲覧ができるは本学教職員と大学院生のみです。

【凡例】

16:30閉館	… 授業期・平日
23:00閉館	… "・休日
17:30閉館	… 試験期・平日
17:00閉館	… "・休日
17:00閉館	… 休業期・平日
17:00閉館	… 休館日

特記のない場合、各窓口、フロア等のサービス時間は上表のとおり。

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	金	月 17:00閉館	水	土	火 23:00閉館	火
2	土 16:30閉館	火	木	日	水 "	水
3	日 "	水 16:30閉館	金	月	木 "	木
4	月	木	土 16:30閉館	火	金 "	金
5	火	金	日 "	水 17:00閉館	土 17:30閉館	土 16:30閉館
6	水	土 16:30閉館	月	木	日 "	日 "
7	木	日 "	火	金	月 23:00閉館	月
8	金	月	水	土 16:30閉館	火 "	火
9	土 16:30閉館	火	木	日 "	水 "	水
10	日 "	水	金	月	木 "	木
11	月 "	木	土 16:30閉館	火	金 17:30閉館	金 17:00閉館
12	火	金	日 "	水	土 "	土 学部入試 (後期日程)
13	水	土 16:30閉館	月	木	日 "	日
14	木	日 "	火	金 17:00閉館	月 23:00閉館	月
15	金	月	水	土	火 "	火
16	土 16:30閉館	火	木	日	水 "	水
17	日 "	水	金	月	木 "	木
18	月	木	土 16:30閉館	火	金	金
19	火	金	日 "	水	土 16:30閉館	土 16:30閉館
20	水	土 16:30閉館	月	木	日 "	日 "
21	木	日 "	火	金	月	月
22	金	月	水	土 16:30閉館	火	火 17:00閉館
23	土 16:30閉館	火 16:30閉館	木 16:30閉館	日 "	水 東学習室のみ開室	水 東学習室のみ開室
24	日 "	水	金	月	木 17:00閉館	木 17:00閉館
25	月	木	土	火	金 学部入試 (前期日程)	金 "
26	火	金	日	水	土 16:30閉館	土
27	水 東学習室のみ開室	土 16:30閉館	月	木	日	日
28	木 17:00閉館	日 "	火	金	月	月 17:00閉館, 東学習室休
29	金 "	月	水	土 17:30閉館		火 17:00閉館
30	土 一橋祭	火	木	日 "		水 "
31	日 (10/29~31)		金	月 23:00閉館		木 "